福井新聞
(3) 福井ワイド 2016年(平成28年)9月4日(日曜日) 福井

闘病の子 遊びでケアを

看護師らHPS役割学ぶ

福井で講座

みんなで……読もう

遊びを通して闘病中の子どもを支える専門職「ホスピタル・プレイ・スペシャリスト（HPS）」の役割や心構えを学ぶ講座が3日、福井市の県立図書館で開かれた。講師は「さまざまな制約を受ける病気の子どもにこそ遊びが必要」と訴え、小児医療チームの一員としてのHPSの必要性を強調した。

HPSの普及につなげようとNPO法人ホスピタル・プレイ協会（静岡市）が企画し、看護師、保育士ら県内外の約30人が参加した。

静岡県立大短大部の松平千佳准教授が、1960年代に英国で始まったHPSの歴史を踏まえ、検査や治療の精神的負担を和らげたり、きょうだいをケアしたりする専門技術を説明した。

乳児の採血でおもちゃやしゃぼん玉を使う動画を示し、「強制ばかりでは病気や入院がトラウマになり、医療への信頼が失われる。経験を肯定できるようにすることが大切」とアドバイスした。

子どもが自由に顔や体、服を描いて遊ぶ人形「キワニスドール」の医療現場での活用例を紹介した。参加者は実際に人形を使いながら、子どもが自分と向き合って手術などの理解につながったり、医療者が子どもの思いを知るきっかけになったりする効果を実感した。（西脇和宏）

HPS講座でキワニスドールに絵を描く参加者＝3日、福井市の県立図書館